



『残心』が育てる川島町の未来の宝物(レジェンドに続け!) 園長 笛木 哲
 かつて友人の剣道高段者から、剣を志す者の心得として『残心』という言葉が教えて
 もらいました。『残心』とは、技を決めた後も、相手の攻撃や反撃に瞬時に返すことが
 できるよう心も体も脱力せずに身構え続けることです。剣道の試合では、『残心』がな
 ければ技が正確に決まっても有効打突になりません。
 『残心』は、だらしないことや気を抜かないこと、
 卑怯でないこと等、私たちの日常生活の場にも繋がります。幼稚園の生活の中にも『残心』に通じる子ども
 達の姿があります。例えば、体操をするためにホール
 に出かけた空っぽの教室を見ると、床には靴下を入れた
 上履きが揃えてあり、机の上には綺麗に畳まれた上着が置かれています。電気が消されて
 真っ暗な教室ですが、その部分だけ浮かび上がって見えます。先ほどまで確かに子ども
 がいた証であり、子どもの姿はなくても子どもの整えられた心がそこに残されています。
 まさに『残心』と言えます。



11月3日、川島町が町制となって50年を迎えたとのことです。とねがわ幼稚園は、川島町の発展と共に今年で創設45年となりました。多くの保護者の皆様、地域の皆様に支えていただいたお陰と感謝しています。■「努力は裏切らない」という言葉で有名な長楽出身の宇津木妙子さんは、川島中学校の時ソフトボールを始めました。日本代表監督に就任し、シドニー五輪で銀メダル、アテネ五輪で銅メダルと大活躍をした日本のレジェンドです。■三保谷で生まれた鈴木聞多さんは、三保谷小(現・つばさ北小)の前の舗装していない道を裸足で走っていたと逸話が残る川島が誇る陸上界のスーパースターです。川島中学校から旧制川越中学校(現・県立川越高校)時代に全国大会を制し、日本代表に選ばれます。ベルリン五輪の前年にあった5ヶ国対抗陸上競技大会では、10秒6(当時の世界記録にあと0秒3に迫る記録)で優勝しました。しかし、第二次世界大戦が勃発し中国戦線に出征、26歳の若さで戦死しました。■三保谷で産まれた日興証券の創業者である遠山元一さんは、長男に「自分は今まで人にだまされることはあっても、人をだますことはしなかった。自分に万一のことがあったら、そういう精神だけは受け継いでくれ」と語った川島町の名誉町民です。とねがわ幼稚園の子ども達も、3名に続く人材がきっと育ってくれることでしょう。



ベルリンで行われた5ヶ国対抗陸上競技大会 100mで優勝(右端)

新しいお友だち

11月からちゅうりっぷ組に福田ひかりさん、レイエス・セバスチャンくん、松尾いおさんが仲間入りします。ちゅうりっぷ組の仲間が13名になりました。この出会いを大切にしたいと思います。



『残心』の続き

『残心』は、「どんな相手でも相手があって初めて技術の向上ができることや相手から自分が学べ、初心にかえることができるなど、相互扶助（助け合い）であるという認識を常に忘れない心の緊張であり、相手を尊重し、思いやること」と辞書にあります。私たち教員は、子どもあつての教員です。子どもから学び、子どもを尊び、子どもを大切にする気持ちを決して忘れてはなりません。ちなみに、群馬の田舎で生まれ育った私は、小学6年生の時に剣道を習い、少年級1級という賞状をいただきました。でも、『残心』を覚える前に、寒稽古のあまりの冷たさに挫折しました。

子どもの「ことば」

- こぐま教室にいらっしゃったお母さんとの会話から。「2歳の娘が昨日、シャワーから放射される水を「ギターみたい」と言って手を伸ばしたのです」…お子さんのまっさらな感受性を受け止め、楽しむお母さんの笑顔が素敵でした。私たち大人は、この先も子どもたちの明るい未来を約束しなくてはなりません。
- 年長教室で私の頭をなでた子が「園長先生の髪は少ないね」。隣の教室で、自作のロケットで遊んでいる子に「ロケットに乗って宇宙旅行をしたいね」と言うと、私の頭の上にロケットを着陸させて彼女は「土星に到着」。…髪の薄さを自認している私ですから「髪は少ないね」といわれても傷つくことはありません（子どもの言葉に相手を傷つけようなんて気持ちはこれっぽっちもありませんから）。でも、頭頂部が他と比べてことさら薄くなっている私の頭を『土星』に見立てる子どものセンス、発想力には感服しました。だって美しい環で飾られた土星は、しばしば「太陽系の宝石」と呼ばれているのですから。



- 年少のころ、教師の言葉が届かず、ピアノの上に乗れり、保育中でも教室の中を走り回り、教室から飛び出してしまふことさえありました。その子が年長に。運動会予行でのこと。運動会最後の華の競技「全員リレー」でその子は、次に走る子に「がんばって」と一言添えてバトンを手渡しました（自分の走ることで精一杯な年頃。声をかけて渡す子はこれまで出会ったことはありません）。…『ご家庭の愛情・家庭教育』と共に、（手前味噌になりますが）『集団生活の中で子どもの良さを認め伸ばし、主体性を育むとねがわ幼稚園の教育』が、こんな素敵な言葉を伝える子を育てたのだと誇りに思います。この子だけでなく、たくさんの成長がありました。『運動会』という経験が、子どもの心を鍛え、友との絆をより深く強くしました。次は、『生活発表会』です。どんな成長を私たちに届けてくれるでしょうか。

生活発表会に関してのお知らせ。最前列は床の上(座布団等)となります。健康上の理由で、床に座ることが難しい方がいらっしゃいましたら、10日(木)までにお知らせください。